

価値創造プロセス

川崎重工グループは、コーポレートトランスフォーメーションにより、長い歴史の中で蓄積された多種多様な価値や高度な技術力などの経営資本を新たな社会課題・マーケットにシフトさせ、革新的なソリューションを提供し続けることにより新たな社会価値を創出し、持続的な企業価値向上を実現します。

社会課題

- リモート社会 ● 人口減少・少子高齢化
- パンデミック・災害 ● 地球環境 ● エネルギー

外部環境

インプット(経営資源)

(2024年度)

財務資本

投下資本
1兆2,249 億円

長期借入金に占める
サステナブル
ファイナンスの
割合 **29.0** %

製造資本

設備投資額 **1,441** 億円

知的資本

研究開発費 **489** 億円

特許保有件数
国内: **3,188** 件
海外保有: **4,637** 件

人的資本

従業員
関連費用※1 **1,643** 億円
女性・外国人・キャリア採用者の
部長級以上への
登用率※2 **8.7** %

社会／関係資本

サプライヤー
調達アンケート
回答件数 **200** 社
IRミーティング実施件数
461 件

自然資本

非再生可能エネルギー使用量
1,392,256 MWh
取水量※2 **5.704** 百万m³

※1 給与・賞与および福利厚生費の合計
※2 川崎重工業(株)・川崎車両(株)・カワサキモータース(株)

価値創造に向けて
活用していく、
強みとなる経営資本

組織資本

- ・125年以上にわたり
培われてきた多様な
製品・サービス技術や
ノウハウ
- ・時代ごとの社会課題
に応えるソリュー
ションを常に創造して
きた挑戦のDNA

人的資本

- ・より高い目標にチャ
レンジし、覚悟とス
ピード感を持って取り
組む人材
- ・誰もが個人の強みを発
揮しながら活躍するこ
とができる組織風土

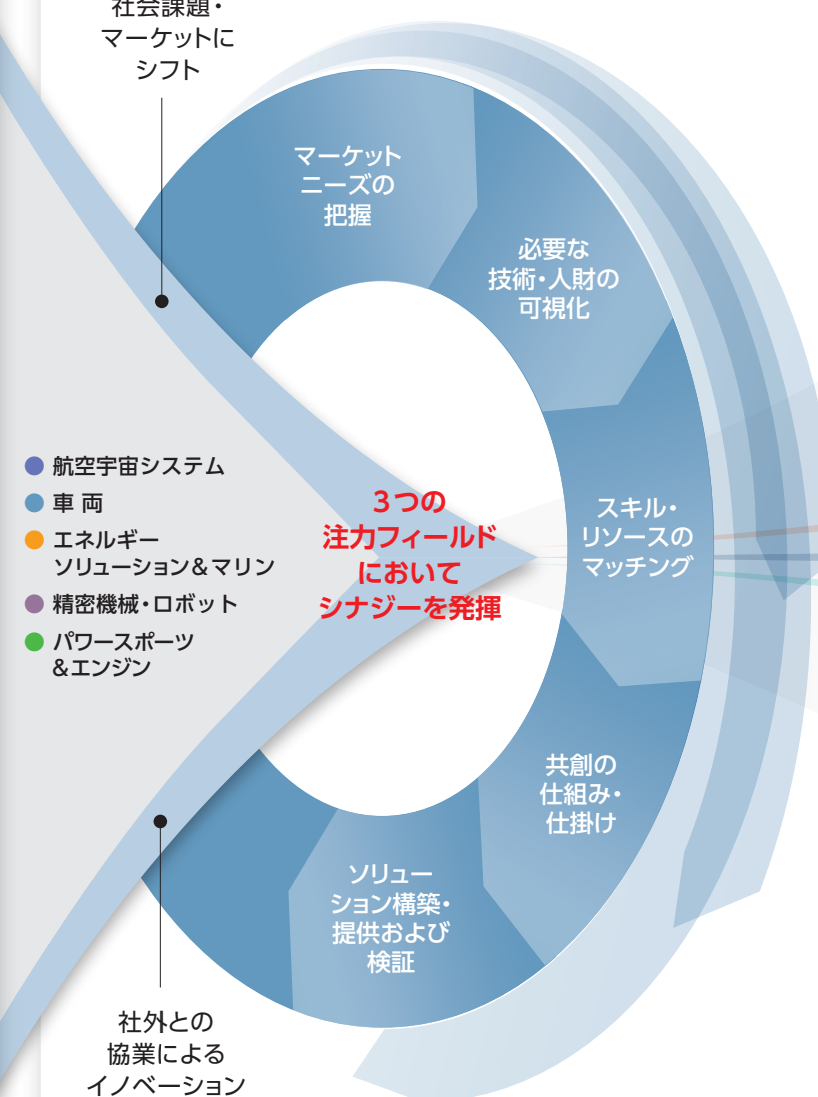
関係資本

- ・お客様に密着し、高度
なすり合わせ技術を駆
使して独自のソリュー
ションを提供すること
により得てきた信頼

経営戦略・事業活動

経営資本を
新たな
社会課題・
マーケットに
シフト

探索の強化による
価値創造



社外との
協業による
イノベーション

事業活動を支える基盤(マテリアリティ)

アウトプット(事業活動の成果)

	2030年度目標	2024年度実績
事業利益率	2030年度までに 10 %超	6.7 %
税後ROIC※3	資本コスト (WACC) +3 %以上	8.0 %

※3 税後ROIC = {親会社の所有者に帰属する当期利益 + 支払利息 × (1 - 実効税率)}
÷ 投下資本(期首・期末平均のNET有利子負債+期首・期末平均の自己資本)

社会課題を解決する新規事業



	2030年度目標	2024年度実績
「社員エンゲージメント(働きがい)」と「社員を活かす環境(働きやすさ)」が共に高い従業員割合	2030年度 50 %超	31 %
事業活動によるCO ₂ 排出量	2050年の バリューチェーン全体の ネットゼロ達成	Scope 1 14.2 万t-CO ₂ Scope 2 30.4 万t-CO ₂ ※4 Scope 3 合計 3,261.5 万t-CO ₂ ※5

※4 マーケット基準

※5 Scope 3については、より正確な排出量とするため、近年、算定方法の変更や集計範囲の拡大を行っています。

アウトカム (創出する社会価値)

安全安心リモート社会
安全安心の
新しい価値を創出

近未来モビリティ
新しい
輸送システムで
人とモノの移動を
変革

エネルギー・
環境ソリューション
クリーンエネルギー
の安定供給に向けて